

日本歯科色彩研究会

「色彩」

NEWS
LETTER

第 8 号

1995年11月30発行
事務局 日本歯科色彩研究会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
廣瀬お茶の水ビル4F

<クインテッセンス出版(株)内>

TEL 03-3292-3691

FAX 03-3292-3696

発行者 橋口緯徳

(第8号担当：元谷昭夫、石橋寛二)

第3回日本歯科色彩研究会総会並びに学術大会について 大会事務局よりのお知らせ

シベリアからの冬の使者、白鳥飛来のニュースが聞かれる季節を迎えましたが、会員各位におかれては如何お過ごしでしょうか、ご案内申し上げます。まだまだ先のことと思っておりました当研究会の3回目の総会並びに学術大会も目前に迫って参りました。表記総会並びに学術大会は既報の通り、平成8年1月21日(日)に福島県郡山市にある奥羽大学歯学部付属病院5階臨床講義室にて開催されます。本日はその後の準備状況につきましてお知らせを申し上げます。

1. 学術大会のタイムスケジュールについて

一般講演、総会、昼食、特別講演、シンポジウムの時間配分および演題名、所属は以下の通りです。

1) 一般口演

「発表時間：9分、質疑応答時間：3分」

座長名は後日報知。

(1) 9:00-9:12「口腔内写真における各種フィルムによる歯および歯肉の色再現の違いについて」、奥羽大・保存2&明海大・保存修復。

(2) 9:13-9:25「臨床経験の有無が歯の色調に及ぼす影響」、奥羽大・補綴1。

(3) 9:25-9:37「陶材の各種顔料比率による透過率、色濃度指数および色調の変化について」、明海大・保存修復&奥羽大・保存2。

(4) 9:38-9:50「歯科用陶材におけるコンピュータカラーマッチング法(CCM)の試

みについて」、明海大・保存修復。

(5) 9:50-10:02「蠟型採得用ワックスがIPS-Empressの色調に及ぼす影響」、岩手医大・補綴2。

(6) 10:03-10:15「セラミックスの光学的特性、グレージング効果について」、岡山大・保存1。

(7) 10:15-10:27「面積と形態の違いによる色彩評価の研究」、明海大・保存修復。

(8) 10:28-10:40「修復用コンポジットレジンによる積層充填に関する研究 第一報：下地材料の違いが修復物の明度に与える影響」、東京医歯大・保存1。

(9) 10:40-10:52「細菌Colonyの色彩に関する研究」、松本歯大・口腔細菌。

(10) 10:53-11:05「コーティング金属の色調に関して、-TiおよびTiNの経時的変化について」、神歯大・補綴2。

(11) 11:05-11:17「歯冠色の空間による表示再現(I)」、カラーランド研究所&明海大・保存修復。

(12) 11:18-11:30「直行座標系における歯の色調の評価法について」、昭和大・保存2。

2) 総会 11:30-12:00

3) 昼食 12:00-13:00

4) 特別講演 13:00-14:00

「生活環境と色の役割」、東北芸術工科大

学教授、日原もとこ先生

5) ポスター発表、各部活動報告、器材展示。

14:00-14:30

6) シンポジウム 14:30-17:30

「Computer Color Matchingの現状と将来展望」、座長：潤田和好

14:30-15:10「基調講演」、石橋寛二。

シンポジスト

(1) 15:10-15:30

「CCMの現状について」棟方明宏。

(2) 15:30-15:50

「歯冠色のCCMについて」、片山伊九右衛門

(3) 15:50-16:10「コンピュータ・カラー・マッチングの現在の問題点とその将来性について」、永沢 栄。

(4) 16:10-16:30

「CCMの必要性」、坂口賢司。

(5) 16:30-16:50「シェードテイキングの実際」、伊集院正俊。

(6) 16:50-17:30「会員の先生方並びに予定発言者とのディスカッション」。

17:30 閉会の辞

2. 宿泊並びに大会当日の昼食(弁当)の受付のご案内。本件につきましては別途「JTB郡山」様から会員各位宛に幹旋・担当のご案内をいたしますのでどうぞご利用下さい。

会費：事前登録(平成7年12月30日まで)

会員5,000円 非会員7,000円 学生2,500円

当日会費

会員6,000円 非会員8,000円 学生3,000円

振込先

大東銀行本店(店番030)、普通預金1614395

口座名：第3回日本歯科色彩研究会学術大会

代表 潤田和好

連絡先：日本歯科色彩研究会事務局

〒101東京都千代田区神田駿河台2-1-4F

クインテッセンス出版(株)内

大会事務局(参加申込先)

〒963 福島県郡山市富田町三角堂31-1

奥羽大学歯学部歯科補綴学第1講座内

TEL 0249(32)8931 FAX 0249(38)9192

研究会活動報告

材料委員会

委員長宮崎 隆

第7号のニュースレターで案内したように、材料委員会では講演会と実習を行いました。

今回は案内が遅かったこと、および10月に集中したこともあり、いずれの企画も参加者が少なく、残念ながら”ポーセレンの研磨と光沢”の実習は中止いたしました。今後は出来るだけ早く会員の皆様に企画の案内をしたいと考えています。来年度に期待してして下さい。

講演会

講演会は、平成7年10月5日(木)午後5時より7時まで、東京医科歯科大学特別講堂で、東京医科歯科大学歯学部歯科保存学第2講座の猪越重久講師(日本歯科色彩研究会常任理事)を講師にお迎えして、”修復用コンポジットレジン光学特性と色調適合性”というタイトルでお話ししていただきました。講演要旨は前回のニュースレターに掲載してあります。又、”歯科の色彩”第2号に”各種市販コンポジットレジンの透過光線の空間分布とヘイズ”というタイトルの原著論文が掲載されているので、関心のある方はぜひ一読をお薦めします。

臨床上有意義なテーマであると同時に、材料開発の立場からも非常に関心の高いトピックスであり、臨床家のほかにも、企業関係者の出席を得て、充実した講演会でした。

実習

実習は、平成7年11月7日(火)午後3時より5時まで、昭和大学歯学部歯科理工学教室において、同教室の李 元植助手を講師に、”金属と色”というテーマで行いました。金属は、独特の金属色、たとえば金であれば黄金色、銀であれば銀色を示します。ところが、チタンは表面の色を黄金色にも、桃色にも、或いは青色にも変えることが出来ます。実習では、陽極酸化法という方法を用いて、参加者がいろいろな色の付与を体験しました。

「住宅施設とインテリア」の見学と講演会開催報告

環境委員会委員長 久光 久

環境委員会と見学委員会の合同企画による上記見学会と講演会が、平成7年9月22日横浜市港北ニュータウンの「ハウスクエア横浜」にて開催された。参加者は8名と少なかったが、これは期日設定が平日の金曜日であったために、多くの会員の方が参加しなかったのではないかと反省している。

午後1時30分に会場に集合し、まず、すっかりお元気になられた橋口会長の挨拶に続いて3時まで「ハウスクエア横浜」の館内を見学した。

この施設は、新築、増築、改築、インテリアに役立つモノや情報に満ちあふれており、インテリアから建材までの多彩なアイテムを展示する「住まいの情報館」、触れながら、学びながら、住まいづくりのポイントを実感できる「人にやさしい住まいづくり体験館」、平面だけからではつかめないインテリアのカラーや部材、レイアウトの立体的な空間イメージを3次元で映像化し、確認できる「シミュレーションルーム」、住宅やインテリアに関する国内外の多くの書籍やビデオ、メーカーのカタログやガイドブックの他に、150タイトルをこえる雑誌などを備え、専門家の高度なニーズにも応える「ライブラリー」、そして各メーカーのショールームが備えられている。1日掛けても十分に廻り切れない館内を、かけ足で見学した後、3時から4階のセミナールームで、女子美術大学、学芸大学、戸板女子短期大学の講師で、通産省の社団法人である日本流行色協会の評議員を務められ、松崎生活デザイン研究所を主催される松崎雅則氏を講師に迎えて「インテリア空間と色彩設計」と題する講演が行われた。

講演内容は、まず日本流行色協会の仕事の内容として、トレンドセッターとしての色の意味付け、物を創る面からの色合いのデザインに関する話から始まり、流行色が自動車では4年、ファッションで2年、工業製品では0年と産業

の形態や物によって先行年数が異なる理由を説明され、ついで日本語の「色」には光や彩りの他に、人間の内面（表情、様子、顔色）や男女関係（恋人、愛人、欲情）を表す意味が含まれているが、英語の「カラー」にはこれらの意味は含まれていないという興味深い話をされた。色彩設計に関しては、松崎氏が豊島区産業プラザの設計に携わった時の経験を交えて、内装色を機能や場所から決定するに当たっては、設計図面や材質、メーカーの制約を受け苦労されたこと、外壁の色は環境の調和に重点をおいて決定されたことを話された。さらに、配布された資料をもとにオーソドックスなオフィスの床、壁、天井の色相と明度、病院内の各部所における照度、建築色彩の色相、明度、彩度、代表的な光源の色温度などについてわかりやすく説明され、ついでにファッションのカラーコーディネートの基本なついても話された。また父上が歯科医師であられることから、歯科医院におけるカラーについて、興味深い意見を述べられた。歯科医院の狭い空間で歯科医師、衛生士、技工士、受付それぞれのユニホームが異なっているが、これはどうも落ち着かない。ユニホームを統一し、線の本数を変えるなどのポイントで職種の区分をすればカラーコーディネートの面で改善される。ピンク色の衛生士のユニホームは彩度が高すぎてけばけばしい。壁に掛ける絵のセンスにも配慮すべきである。モダンアートによくある鋭角な形を描いた絵は鋭利な刃物を連想させるので、患者にやさしくない。患者に対して優しく、落ち着いた絵を飾ってほしい。室内では仕切りやポイント以外では彩度の高い色は極力避けるべきである。以上のような、色彩の専門家からの貴重な意見は、診療室の色彩設計にあたって大いに参考にしたい内容であった。

講演終了後、活発な質疑応答がなされ、最後に日本歯科色彩研究会から感謝状が贈呈され、午後4時30分会を終了した。

編集委員会より

1. 「歯科の色彩」第2巻1号を10月14日に発行致しました。創刊号とは内容を一新し、原著論文からQ&A、歯科色彩に関する情報まで幅広く、会員の皆様の血となり肉となるように編集したつもりです。今後の編集方針の指針とするために、率直なご意見を巻末のピンクページ「提案用紙」でお聞かせ下さい。また、Q&A欄の「Q」を募集していますが、採否は編集委員会に一任していただきます。採り上げますときに、質問者のお名前は伏せますので、気軽に郵便やファクシミリで編集委員会宛にお寄せ下さい。

2. 投稿規定の一部を変更しました。概要を以下に述べます。

①ワープロの使用による原稿は、フロッピーディスクも付けて下さい。

②粗末な図や写真は、そのまま掲載しないことがあります。

③投稿規定は査読を行います。

また、専門用語に関しては、規定の3の2)にお断りしていますが、今号の原稿では「歯牙」や「デンチン色」が目につきました。文部省学術用語集ではそれぞれ「歯」、「デンティン色」となっています。

3. 「歯科の色彩」の略号は和文では「歯色彩」、英文では「J. Jpn. Acad. Color Dent.」です。2巻1号の奥付に表示してあります。

4. 次号は、第3巻1号で平成8年8月末発行予定です。原稿締切は4月末の予定です。原著、総説、臨床など歓迎致します。

日本歯科色彩研究会・名刺作成のお知らせ

歯科と色彩の研究を象徴したユニークな会員名刺の作成を行います。表は会員名と所属を印刷し裏面には、光による色ズレが一目でわかる演色評価色を対にした名刺印刷です。患者さんとのコミュニケーションなどにも使えます。一組100枚セットで予定価格8千円となります。お申込み、お問い合わせは事務局宛お願いいたします。

日本歯科色彩研究会会員募集！！

日本歯科色彩研究会も、今回の奥羽大学歯学部における第3回総会・学術大会開催をもって、いよいよ学会に昇格させたいと思っております。これも役員の方々、会員の皆様のご努力の賜物と存じます。日本色彩学会は古くから存在していたものの、歯科におきましては、全く無視されてきた分野でありました。少なくともRestorationの色合わせ、ポーセレンテクニクにおける歯冠形態において、歯科医師、歯科技工士が絶えず携わって来た色の問題が、全く手つかずに忘れられていた事は不思議な気がします。齶触の問題、欠損歯修復、義歯などの機能回復面に全ての力が向けられ少しずつ解決され出すと、次はもう少し変わった研究に目が向けられるようになったようです。噛めれば良かった義歯が、より機能的な心地良いものにとの要望から、インプラントの研究に進み、かつ、機能ばかりでなく、見た目、容貌の一部としての役割を担わされてもきました。歯科医も医療人として、心理的なケアにも応じなければならなくなる時がやって来ました。こうした時代に呼応して、この研究会もより幅を広げ数滴にも増やすことで、より視野の広いものにしたいと考えます。つきましては、一人でも多くの方々のご加入をお願いして、より広く、より強力な力をもって活躍できるようになって欲しいと切望いたします。この研究会が学会に昇格することで、この会で得られた研究成果が、より多くの研究者ばかりでなく、開業の諸先生方へも何らかの知識の分配が可能になる様、そして開業医の先生方のご経験にもとづく地に着いた結果がフィードバックされる事、その事で、研究がより進歩し、発展していくよう望んでおります。また、働きずくめの医療人にこの会を通して、レクリエーションの場が与えられればと、そうした副産物も期待する訳であります。

日本歯科色彩研究会会長 橋口緯徳